

【施策評価調査】

施策名	2-4-3	食育教育の推進		92	高根沢町地域経営計画2006 該当ページ	92	食に関する知識を学ぶ機会を提供することで、肥満症や生活習慣病の若年化の防止になる。四季折々の食材を使って食卓を飾るとい、日本本来の食文化子ども達に伝えていくことで、食の大切さを学ぶとともに地域との交流深める。
		担当	児童福祉担当				
担当部課	教育部	子どもみらい課	リーダー	戸井田 和 明	実施内容		
環境変化							食へ物を大切に教育や、食の安全性と栄養に関する学習機会を、保育園や児童館、学童保育所を通じて提供し、食育教育の普及を図ります。(「高根沢町地域経営計画2006」からの抜粋)

指標

施策の評価指標	基準値	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
指標：保育園農園体験年間開催回数(回)	平成16年度	計画	21回	28回	35回	35回	36回
		実績	14回	38回	40回		
指標：乳幼児・児童の食育指導年間開催回数(回)	平成16年度	計画	15回	18回	25回	27回	28回
		実績	38回	17回	21回		
指標に関する特記事項	乳幼児・児童の食育指導年間開催回数は、「身近な食材を使った簡単レシピ」を作成し配布することに力を入れたため少なくなっている。						

施策に係る事業費(傘下事務事業費計)の推移	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
	当初	0	427,900	546,000	735,000	
	決算	0	272,799	467,906		

事務事業事前評価 22年度の組立て

施策傘下事務事業	事業費	活動指標(アウトプット)	事業の実施によって、施策達成にどう貢献しますか？(アウトカム)	今後の方向性(総合評価)	条件付継続
ぼくらの“食いく”事業	H21 現計 735,000	提案採用機関数 9箇所	各保育園や幼稚園が行う、自主的かつ主体的な食育体験活動を尊重すること、行政が財政的な支援とコーディネーター的役割を果たすことで、より積極的な活動が期待できます。また提案採用までのプロセスのなかで、「推進行動計画」への理解を深めていくことも、期待する成果です。	今後の方向性(総合評価)	条件付継続
	H22 計画 980,000				
	H21 現計			今後の方向性(総合評価)	
	H22 計画			今後の方向性(総合評価)	
	H21 現計			今後の方向性(総合評価)	
	H22 計画			今後の方向性(総合評価)	
	H21 現計			今後の方向性(総合評価)	
	H22 計画			今後の方向性(総合評価)	

施策事前評価 22年度の組立て

自己評価	後期計画に向けた施策展開のビジョン		H22年度の狙い
	今後の方向性 規模拡大	保育園等の食育事業をコンベ方式にすることで自主的・主体的な取り組みをしていただくこと、公立私立問わず事業の利用が可能になり食育の推進を図る。また、生産者と消費者が身近なところで交流が図れることが子どもたちの食に対する意識があがるため多様な方法を使い拡大していく。	
総合評価	<p>食育地産地消プロジェクトを各課横断的に推進していくために、子どもみらい課の立場から積極的に事業を仕掛けている姿勢を評価する。</p> <p>ただし、後期計画に向けて、規模拡大とするならば他課が行う他の事業と各保育園や幼稚園などと整合性を図った上で、施策展開を検討すること、また、それに併せて指標を見直すこと。</p> <p>なお、「ぼくらの“食いく”事業」は各保育園、幼稚園が独自の考え方で行うこととし、H22年度は、情報の提供など側面的な支援を行うこと。</p>		